



TITLE:

<大會抄録>明代生員の諸特権：附  
學生を中心に

AUTHOR(S):

渡, 昌弘

---

CITATION:

渡, 昌弘. <大會抄録>明代生員の諸特権：附學生を中心に. 東洋史研究  
1999, 58(3): 613-613

ISSUE DATE:

1999-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/155259>

RIGHT:

## 明代生員の諸特權——附學生を中心に——

渡 昌 弘

明代中期以降、いわゆる「郷紳」或は「紳士」と稱される階層が出現・成立したが、その契機として想定もしくは重視されているものの一つに、附學生の設置がある。すなわち附學生の設置は、土人の大部分を占める生員の無定員化をもたらし、とりわけ社會經濟の面での影響として、徭役優免特權の所持者を増加させたと考えられたからである。この點に關して報告者は、法令上、附學生にその特權は賦與されていなかったとの否定的見解を提示したことがあり、ご批判も頂戴している。ともあれ、徭役優免特權に限られることではないが、生員の無定員化による變化・影響は多方面に及ぶ筈であり、明朝はそれを十分に豫測・考慮して附學生を設置したのか、そもそも附學生が他の生員（廩膳生、増廣生）と同等の特權を有していたのか、という疑問を抱いている。

本報告は、こうした理由から、生員の中でも無定員の、そして最下級の附學生に廩膳生・増廣生と同様の權利が賦與されていたのか、という極めて基本的な點等について、若干の意見を述べたいと思う。なお、報告の目的は以上のようなものであるが、「郷紳」や「紳士」の問題とは一旦切り離し、生員に關わる制度の問題として検討を加えていく。

## 辛亥革命期上海に於ける株式先物取引規制と

## 破産處理

——一九一〇年ゴム株恐慌をめぐる一考察——

本 野 英 一

アロー戦争終了以來、清末中國を見舞った大規模な經濟恐慌に就いては、既に數多くの先行研究がある。しかしそれらは、概ね恐慌の發生過程と、當時の中國社會經濟に與えた打撃のみに關心を集中し、恐慌勃發後に何が起つたのかを殆ど解明しなかった。

一八六六年恐慌以來、中國で大規模な經濟恐慌が起る度毎に問題となつたのは、條約港租界を事業活動の據點とする外國商社、銀行とその買辦を仲介者とする中國商人、錢莊との間の債權債務處理と債務者の財産保護であつた。

本報告では、かかる觀點から一九一〇年の「ゴム株恐慌」を事例に取り上げる。蕭文嫻の注目すべき研究論文が明らかにしているように、この時期の東南アジアゴム株取引ブームに乗じて信用を極度に膨張させ、恐慌勃發のきっかけを作つたのは、イギリス人投資家、James Alexander Wattie と深い關係にあつた二人の中國人買辦、陳逸卿と戴嘉寶であつた。しかし、蕭文嫻論文とても、恐慌勃發後二人を中心に如何なる債務處理と株式先物取引規制がなされたのかを明らかにしていない。

この問題に關する最も詳しい史料は『ノース・チャイナ・ヘラルド』掲載の上海最高法廷、會審衙門で行われた民事訴訟記録、及び